

日本労働年鑑 第50集 1980年版
The Labour Year Book of Japan 1980

第二部 労働運動

XIV 政党

7 日本共産党

3 中央委員会総会

共産党の大会は他党のように毎年一回ではなく「三年以内に一回ひらかれる」ことに決められている。「党大会から党大会までのあいだ、党大会の決議を実行し、党の全活動を指導する」のは中央委員会でその総会は「年二回以上」開かれることになっている。最近の党大会は七七年一〇月に開かれた第一四回大会で、その内容はすでに本年鑑七九年版でとりあげた(五一〇～五一二ページ)ので、別項の役員の氏名のほかは省略する。

この一年間に開かれた中央委員会総会は第五回から第七回までの三回である(回数は第一四回大会以降の通算)。これらの総会は、いずれも党本部で開かれ、第一四回大会で選出された中央委員一四一人、准中央委員五四人が出席した。

五中総は七八年九月、有事立法が政治問題化し、国会の年内解散もありうるとみられた情勢のもとで開かれ総選挙と地方選の選挙準備を中心に、機関紙誌の拡大、入党者教育、組織、財政などの諸問題が検討された。

六中総は七九年二月に開かれた。この総会は統一地方選を前にして態勢固めをはかると同時に、元号問題その他、新たに成立した「大平内閣の反動的政策」にたいする反対闘争の展開をよびかけた。また、中越国境紛争、カンボジア問題にかんし、中国の態度をきびしく批判した。

七中総は七九年五月に開かれ、統一地方選の総括をおこなうと同時に、総選挙と八〇年参院選にむけて、党员や機関紙の拡大、パンフの普及、後援会の確立拡大をよびかけ、六月、七月を「総選挙勝利をめざす躍進月間」に設定した。

各総会の開催日、主な議題と報告者はつぎのとおりである。諸報告、決議の詳細は『理論政策』の第一二九号(七八年一〇月)、同一三四号(七九年三月)、同一三七号(七九年六月)に収録されている。

五中総(七九年九月一四日～一七日)

(1)党務報告(不破書記局長) (2)選挙準備活動について(緋田選対局長) (3)計画的拡大と定着活動の新しい前進のために(宮本機関紙誌局長) (4)新入党者教育をはじめとする「義務教育」遂行による党建設の問題について(小林教育局長) (5)党生活の整備、確立について(浜組織局長) (6)財政活動の強化について(藤井財務局次長) (7)地方政治の革新、自治体活動の強化のために(下司自治体局長)。

六中総(七九年二月六日、七日)

(1)党務報告および幹部会決定の説明(不破書記局長) (2)当面する国際問題について(西沢副委員長) (3)決議「大平内閣の反動的政策にたいする政治的反撃の先頭に立つ」とう (4)声明「国民主権と文化に逆行する元号法制化」 (5)監査委員の交替。

七中総(七九年五月二三日～二五日)

(1)ソ連共産党との予備会談の経過と結果(西沢副委員長) (2)特別決議「『資格争訟』の名による議会制民主主義否定の暴挙を糾弾する」 (3)第九回いっせい地方選挙の総括についての報告(緋田選対局長) (4)第七回中央委員会決議と党務報告(不破書記局長)。

日本労働年鑑 第50集 1980年版

発行 1979年11月10日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 労働旬報社

2001年9月25日公開開始

■ ←前のページ 日本労働年鑑 1980年版(第50集)【目次】 次のページ → ■
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)
